**【Power Automate】OneNoteに日付・曜日で１か月分のページを自動作成してみた**

OneNoteで毎朝の連絡を行う職場が増えてきました。

セクションを月、ページを日のタイトルにしています。



年間計画表、予定表、学校であれば職朝連絡といったところです。

ただ毎月この３１ページを作成するのが大変だということで。

Power Automateによる１か月分のページの自動作成をやってみました。

■前提・準備

・Office 365 Businessプランを利用。

・OneNoteで年間計画表という名前で作成しておく。

・４月という名前のセクションを作成しておく。

※これは記事作成時点の情報です。

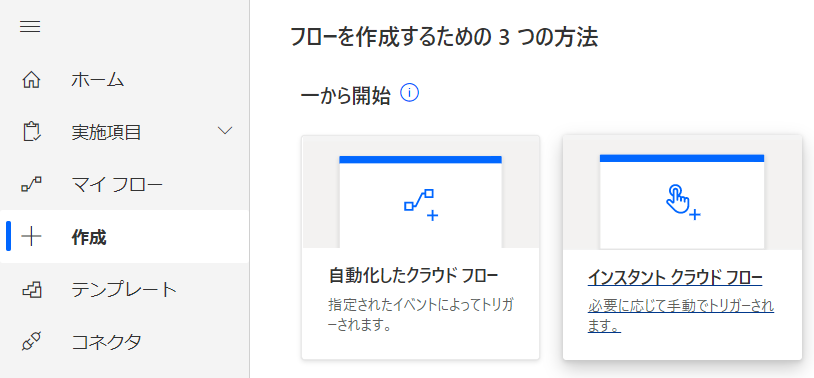
※これは筆者がやったみた記録であり、同じ方法を推奨しているわけではありません。

1. 作成



作成を選びます。

1. フローの作成



インスタントクラウドフローを選びます。

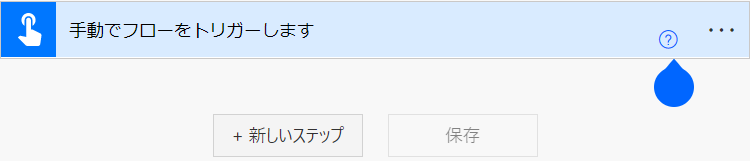
1. フロー名



フロー名（例：OneNoteに日付・曜日で自動作成）を入力します。

トリガーする方法は「手動でフローをトリガーします」。

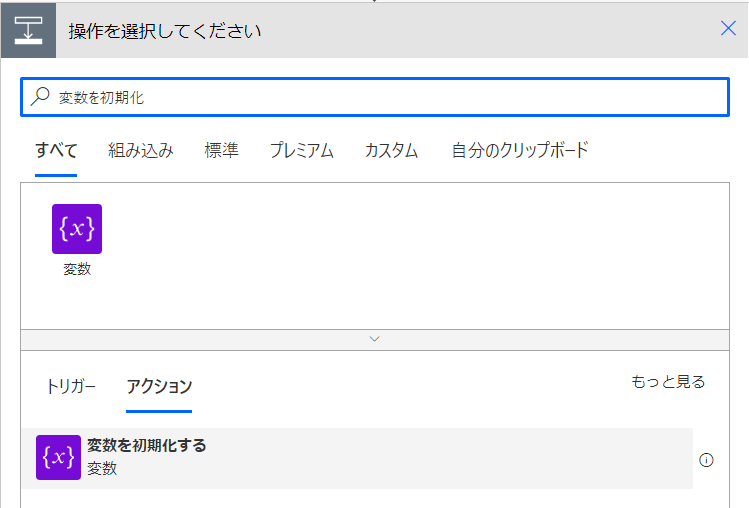
1. フローの作成



フローの作成画面になりました。

「新しいステップ」でフローを追加します。

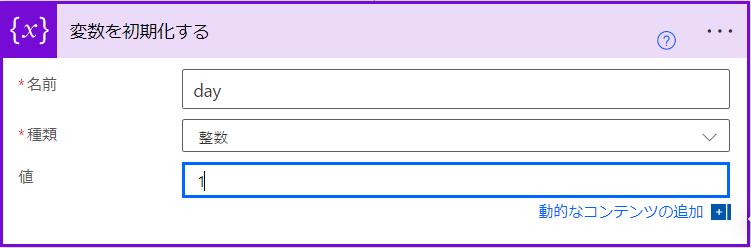
1. 変数を初期化するアクションを追加する



検索欄に「変数を初期化」と入力すると、下部のアクション一覧に表示されます。

「変数を初期化する」を選択します。

1. 初期化の内容を入力する

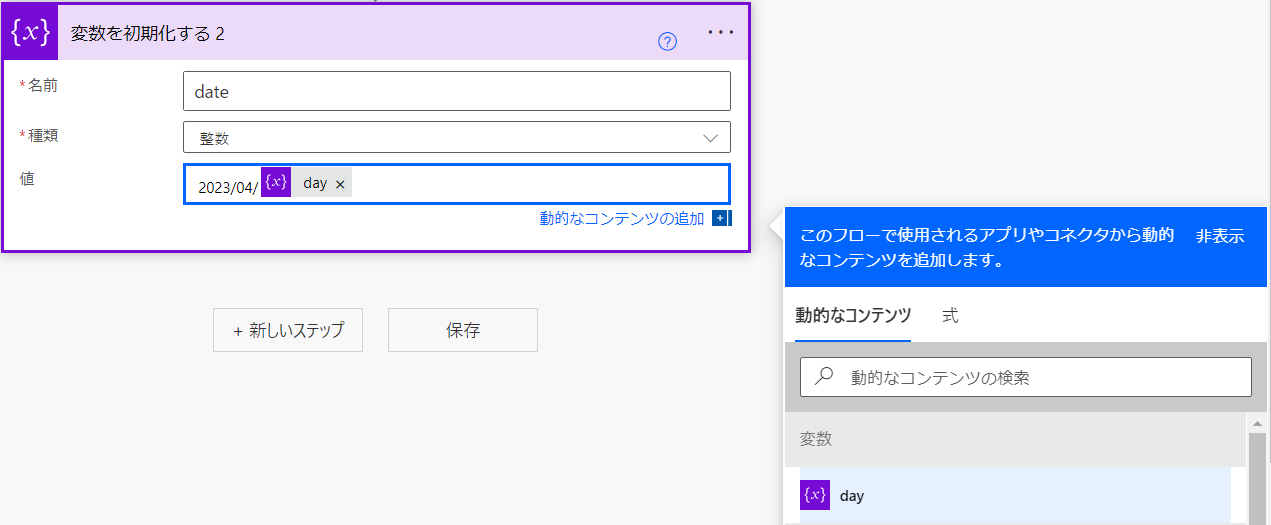


名前：day（日、１日のこと）

種類：整数

値：1

1. 変数dateを追加する



同様の手順で変数を追加します。

名前：date（何月何日の日づけのこと）

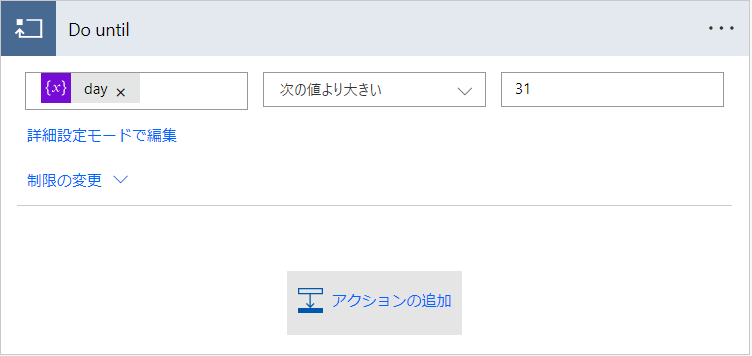
種類：整数

値：2023/04/ (x)day

何月何日の何日の部分には先ほどの変数dayをあてはめます。

右のメニューから「動的なコンテンツ　＞ (x)day 」を選びます。

1. Do untilアクションを追加する。



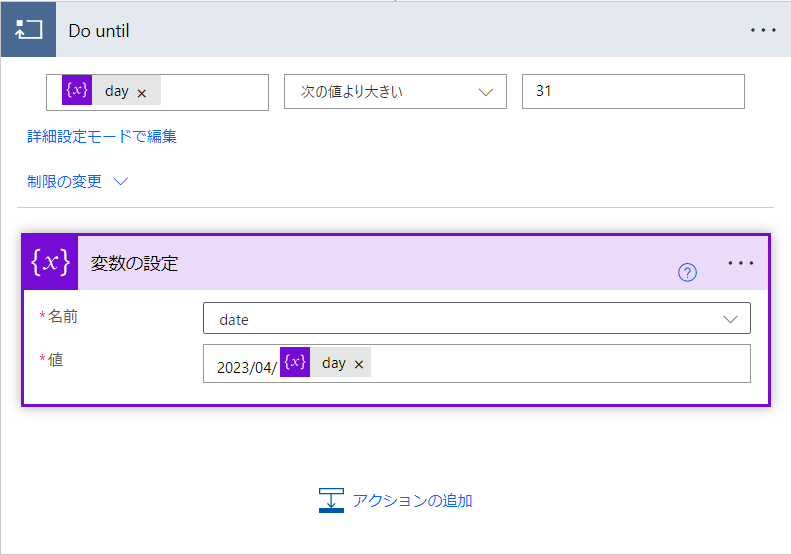
今度は変数ではなくDo untilの繰り返しのためのアクションを追加します。

左の値には(x)dayを選びます。

これにより(x)dayが最初の１から３１になるまで作業を繰り返す設定になります。

続いて繰り返す内容を追加していきます。

1. 変数の設定アクションを追加する



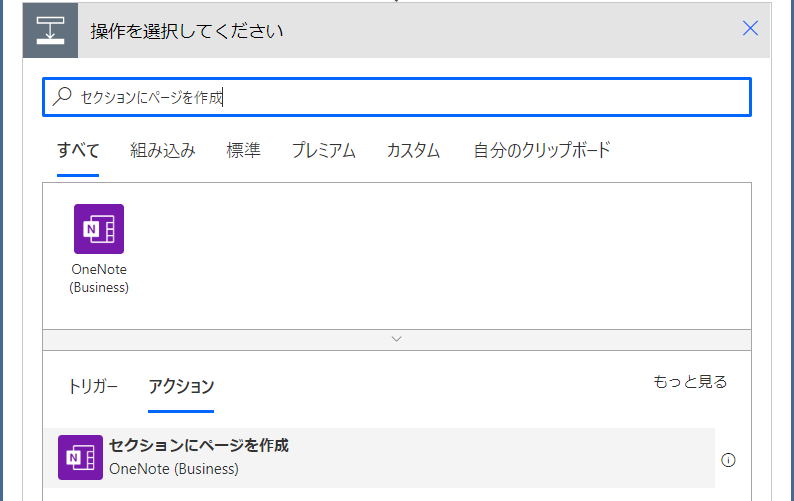
アクションを追加するのはDo until内であることを確認します。

名前：date

値：2023/04/ (x)day

これにより１から３１まで数字が変わるたび、日の部分にその数字が入ります。

1. セクションにページ作成アクションを追加する

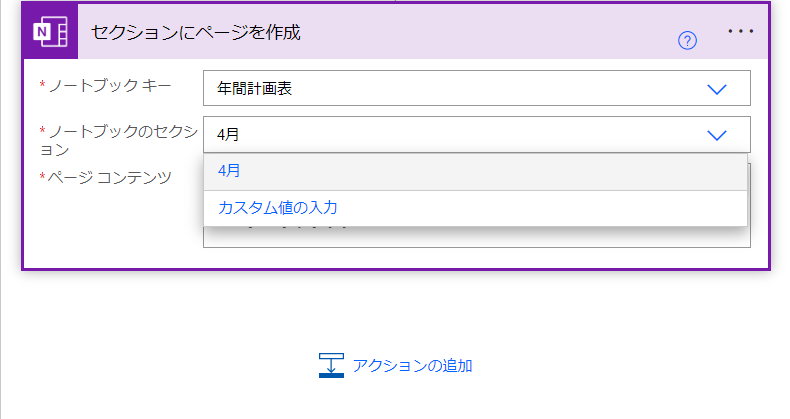


追加するのは引き続きDo until内であることを確認します。

検索欄に「セクションにページを作成」と入力すると、下部のアクション一覧に表示されます。

セクションにページ作成アクションを追加します。

1. OneNoteを指定する

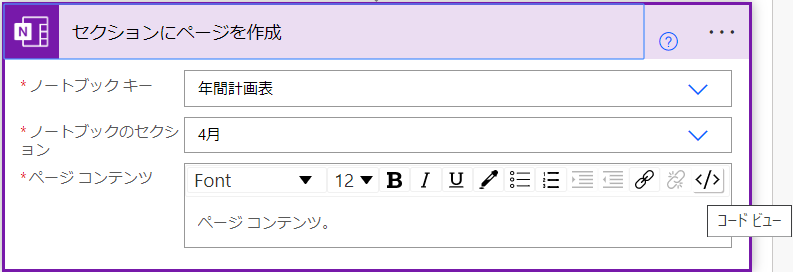


自分が所有しているOneNoteを選ぶことができます。

ノートブックキー：年間計画表（自分のOneNote）

ノートブックのセクション：4月

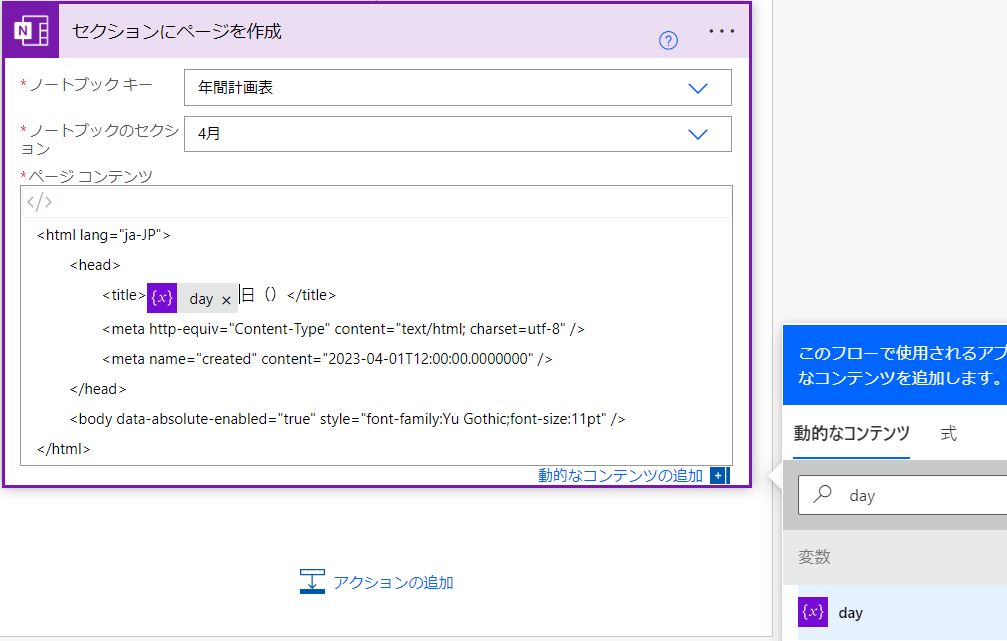
1. ページコンテンツではコードビューに変更



ノートブックキーとセクションを指定後。

ページコンテンツについては、右端のコードビューのアイコンを押します。

1. ページコンテンツにHTMLを記述。何日の部分。



ページコンテンツには以下をコピー＆ペーストします。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

<html lang="ja-JP">

<head>

<title>　日（　）</title>

<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=utf-8" />

<meta name="created" content="2023-04-01T12:00:00.0000000" />

</head>

<body data-absolute-enabled="true" style="font-family:Yu Gothic;font-size:11pt" />

</html>

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

また、何日（曜日）の何日にあたる

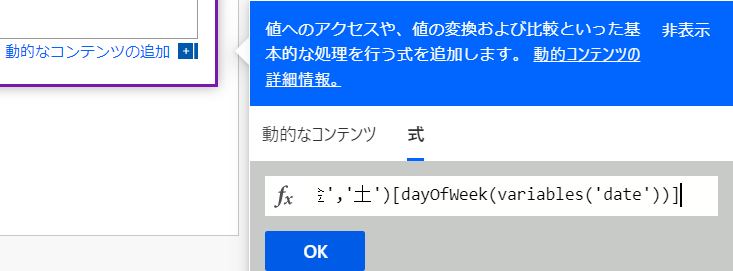
<title>　日（　）</title>

部分には変数dayをあてはめます。

右のメニューから「動的なコンテンツ　＞ (x)day 」を選びます。

1. 曜日の部分

続いて曜日の説明です。



何日（曜日）の曜日にあたる

<title>(x)day日（　）</title>

部分には動的コンテンツではなく「式」をあてはめます。

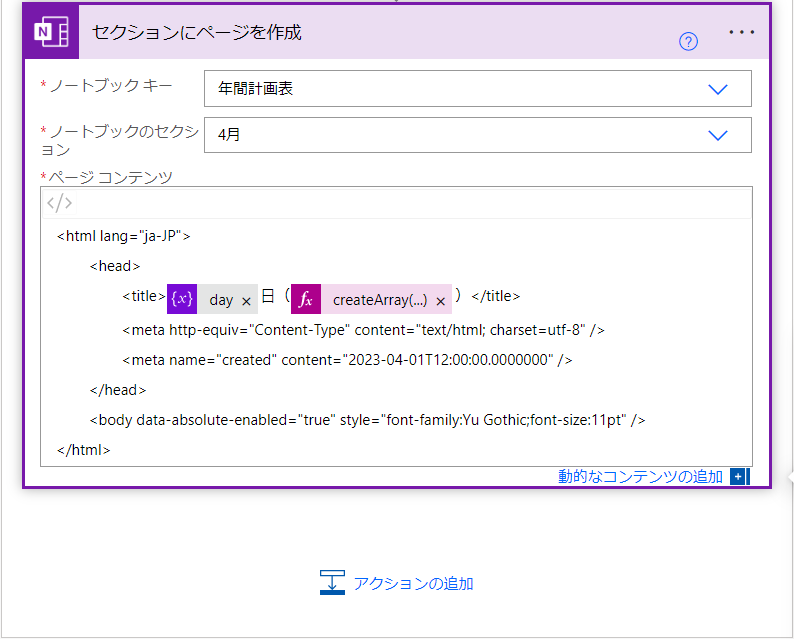
式を選んだ後、以下の内容をコピー＆ペーストしてください。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

createArray('日','月','火','水','木','金','土')[dayOfWeek(variables('date'))]

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

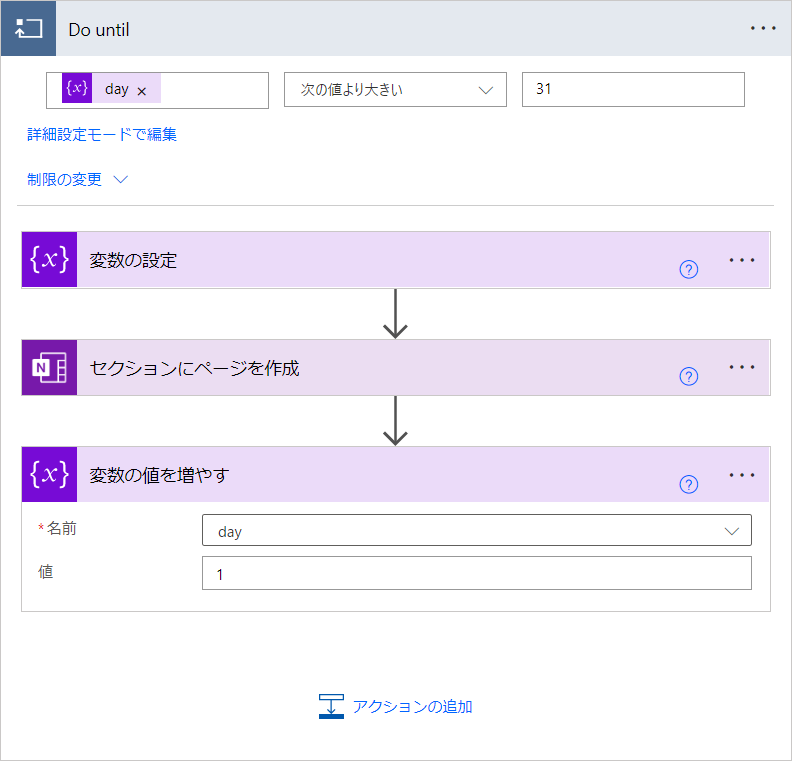
1. 何日・曜日の確認



何日の部分には(x)day

曜日の部分にはcreateArray(..)が入っています。

1. 変数の値を増やす



最後に変数の値を増やすアクションを追加します。

名前：day

値：1

これによりDo until内でdayに毎回1を足しながら作業を繰り返すようになります。

1. テスト



保存をすると、メニュー右上のテストから実行することができます。

手動を選んでテスト→続行。

「フローの実行」により実際の動作がはじまります。以上です。